

令和 7 年度

第 3 回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和 7 年 5 月 9 日（金）

開会 13 時 35 分 閉会 14 時 13 分

場 所 教育委員会室

令和 7 年度
第 3 回大分県教育委員会

【議 事】

(1) 議 案

第 1 号議案 職員のへき地手当等の支給に関する規則の一部改正について

(2) 報 告

- ① 令和 7 年度大分県立爽風館高等学校秋季募集人員について
- ② 令和 8 年度県立中学校入学者選抜の日程等について
- ③ 令和 7 年 3 月卒 高等学校新規卒業者の就職状況について
- ④ 令和 7 年度第 1 回グローバルリーダー育成塾（第 10 期生）開講について

【内 容】

1 出席者

教育長	山 田 雅 文	
委 員（教育長職務代理者）	高 橋 幹 雄	
委 員	鈴 木 恵 代	
委 員	岩 武 茂 弘	
委 員	岡 田 豊 弘	
委 員	藤 田 敦	
事務局	理事兼教育次長	大 和 孝 司
	教育次長	山 田 誠 司
	教育次長	木 村 典 之
	教育改革・企画課長	鈴 木 耕 平
	教育人事課長	神 屋 貴 志
	高校教育課長	小 野 和 正
	教育改革・企画課	和 田 博 幸
	教育改革・企画課	多 嶋 田 智
	教育改革・企画課	穴 見 ひ と み
	教育改革・企画課	高 橋 直 也

2 傍聴人

1 名

開会・点呼

(山田教育長)

委員の出席確認をいたします。
本日は、全委員が出席です。

(山田教育長)

ただ今から令和7年度第3回教育委員会会議を開催します。

署名委員指名

(山田教育長)

議事録の署名については、鈴木委員にお願いします。

会期の決定

(山田教育長)

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりです。
会議の終了は14時15分を予定していますので、よろしくお願いします。

議 事

【議 案】

第1号議案 職員のへき地手当等の支給に関する規則の一部改正について

(2課〔教育改革・企画課、教育人事課〕入室)

(山田教育長)

まず、第1号議案「職員のへき地手当等の支給に関する規則の一部改正について」教育人事課長から説明をしてください。

(神屋教育人事課長)

第1号議案 「職員のへき地手当等の支給に関する規則の一部改正」について説明します。

へき地手当及びへき地手当に準ずる手当は、へき地教育に優秀な人材を確保するため、へき地教育振興法の規定に基づき設けられた手当であり、手当等の支給

に関して必要な事項は県条例で定めています。手当の支給対象となる学校等については、教育委員会規則で定めており、小学校、中学校及び義務教育学校の統廃合や新設の都度、支給対象校に係る規則改正を行っています。

資料4 ページの「改正の概要」をご覧ください。今回の規則改正は、学校の統廃合に伴うものです。

まず、小学校についてですが、3校を削除します。

竹田市の菅生小学校は、今年度から南部小学校に統合されたことから削除し、また休校していた佐伯市の大島小学校及び蒲江翔南小学校深島分校の2校が、令和6年度末をもって廃止されたことから削除するものです。

続いて、中学校ですが、こちらも休校していた佐伯市の、大島中学校及び深島中学校の2校が、令和6年度末をもって廃止されたことから削除するものです。

以上、ご審議のほどお願いします。

(山田教育長)

ただ今説明のありました議案について、審議を行います。

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

佐伯市の離島の学校が削除されていますが、生徒がいらないということですか。

(神屋教育人事課長)

いずれの学校も休校中ですので、現在通学している生徒はいません。

(高橋委員)

島の子どもが、本土の学校に通う場合の交通手段について補助などがありますか。

(鈴木教育改革・企画課長)

統廃合などがあった場合に、スクールバスやボート等について、国費の市町村補助メニューがあります。

(岡田委員)

へき地学校には、第1級から第5級まであるようですが、どのように分類しているのですか。

(神屋教育人事課長)

スーパーマーケットや病院などの施設からの距離といった項目を点数化し、最も点数が高い区分が第5級になります。級が高いほど、よりへき地にあるということです。

(藤田委員)

最近、学生が教員の待遇に興味を持ち始めています。手当は20代の若い人でどれくらいもらっていますか。

(神屋教育人事課長)

給料と扶養手当を合わせた額に、支給割合を掛けた額を支給しています。支給割合は、最も高い第5級学校で22%となっており、第1級学校で6%です。4月は266人に支給されており、平均支給額は、約23,000円です。年齢別の支給額は持ち合わせていませんが、若い人で12,000円ほどもらっているのではと記憶しています。

(藤田委員)

こういう情報は学生達に伝わっているのでしょうか。できるだけ正確な情報を伝えることが大事だと思います。

(山田教育長)

他にありませんか。

それでは、第1号議案の承認についてお諮りいたします。

承認される委員は挙手をお願いします。

(採 決) 全員挙手

(山田教育長)

第1号議案については、提案のとおり承認します。

【報 告】

① 令和7年度大分県立爽風館高等学校秋季募集人員について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(山田教育長)

次に、報告第1号「令和7年度大分県立爽風館高等学校秋季募集人員について」高校教育課長から説明をしてください。

(小野高校教育課長)

令和7年度爽風館高等学校秋季募集人員についてです。5ページをご覧ください。

資料1に記載しているように秋期募集の人員は、入学定員から、春季入学者数を除いた数になります。したがって2の表に記載しているように、定時制課程の3部制は、Ⅰ部・普通科が35名、Ⅱ部・普通科が29名、Ⅲ部・普通科が36

名、同じくⅢ部・商業科が３９名となり、合計１３９名を募集します。下の表には参考として秋期募集に係る概要を記載しています。

なお、この日程等は、昨年の１０月に公表した実施要項で発表済みですので、本日は、秋季募集の人員を報告するものです。

次に、通信制課程について説明します。３の表に記載していますように、秋季募集人員は入学定員４００名から、春季入学者数、１０６名を除いた２９４名になります。定時制と同様に、下には、秋季募集に係る概要を記載しています。

以上で報告を終わります。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(岩武委員)

定時制、３部制課程についてですが、この秋の募集人員Ⅰ部３５人、Ⅱ部２９人という数は、例年秋の募集で埋まる数字ですか、それとも欠員が出る数字ですか。

また、通信制課程についてですが、毎年入学定員が４００名ということですが、３年や４年で卒業していく方ばかりではない中で、今の通信制課程の在籍者数は何人か教えてください。

(小野高校教育課長)

まず１点目についてですが、秋に志願してくる生徒の数はあまり多くなく、１桁台の数になるため、最終的にはかなり欠員が出ます。通信制の在籍者数は総計で１，２１４名です。

(岩武委員)

スクーリングやレポートの提出がきちんとできていれば、おそらく一定の年数で卒業できるのですが、そうでない生徒というのは、色々な事情があつて、なかなかレポートの提出などがうまくいっていないのではと思います。

この１，２００という数は爽風館高校で例年ある程度一定の数ですか、それとも増減があるのですか。

(小野高校教育課長)

総計としては増えている状況です。通信制に通う生徒が全体的に増えていて、県外に行く生徒も同様に増えています。委員の指摘に関連しますが、総計１，２１４名の中で活動生の数は１，０００名未満の９２９名という実態になっています。

(山田次長)

補足ですが、今は通信制の話でしたが、爽風館高校全体の在籍者数も増加傾向

にあり、爽風館高校を本当に目指している生徒の数も増えています。休眠生と言って登録はするが活動しないという生徒の割合はどんどん減っていて、実活動生の割合が増えています。現在1,200のうち900が実活動生ですが、昔に比べるとその割合は大きくなっているのではないかと思います。

(岩武委員)

碩信高校だったときには2,000人ぐらい在籍する中に、かなり多くの休眠生がいました。現在、爽風館高校の通信制は在籍年数に制限を設けていますか。

(小野高校教育課長)

制限はあるのですが、具体的に何年かは今わかりません。

(高橋委員)

私も詳しく知りたいので、Ⅰ部、Ⅱ部、Ⅲ部の時間帯と、どれぐらい単位を取る必要があるのか、またスクーリングの授業をどれぐらい受ける必要があるのかということの後ほど教えてください。

(鈴木委員)

私の子どもはⅠ部に通ったのですが、先生方がとてもいい授業をしてくれていました。授業は、少し飽きてしまうような生徒もいたようなのですが、生徒が授業中しっかり集中して授業に取り組めるような工夫をしてくれていて、とても前向きに取り組めた授業がたくさんありました。座学だけではなく、実習の授業もあったので、とても楽しんで学校に通っていました。学校で認められる経験がしっかりできたので、大学に行くことにつながったと、私は思っています。

先日、爽風館高校を伺ったのですが、通っている生徒がとてもいい顔をしていました。そういった情報が、もしかしたら伝わってないのではないかという気がします。実際、私も子どもが入る前は、どのような所かわかっておらず、パンフレットやホームページを見ても、今一つ伝わってきませんでした。入学を検討している生徒や中学生の皆さん、または保護者の方に、実際にどういう授業をしているか見ていただくことで、安心していただけるのではないかと思います。

公立高校で定時制や通信課程があるというのはかなりの強みだと思います。また、色々な先生が働いていて、とてもユニークな学校だと思います。もっと宣伝したほうがよいと思っています。未だに、子どもと爽風館高校について話をするほど、とても強く印象に残っています。授業だけではなく、文化祭などの様々な取組の際、コミュニケーションが苦手な生徒もいる中で、何とかうまくいくように工夫していたところもよかったです。

例えば、卒業生のお話を聞く機会があったり、学校の様子を見てもらったりすることで、通学することへの心配や不安から通信制を検討している生徒に、定時制もよい選択であるとわかってもらえるのではないのでしょうか。

(小野高校教育課長)

以前からきめ細やかな指導はしてきましたが、最近は特にペア学習などコミュニケーションをとれる活動を行うことで、自立心や社会性を育てることを学校は意識しています。

説明会は主に学校であるのですが、その他にも個別に来た生徒や保護者にもその都度対応して、学校を見学していただく取組をしています。

今後もより広く周知をしていきたいと考えています。

② 令和8年度県立中学校入学者選抜の日程等について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(山田教育長)

次に、報告第2号「令和8年度県立中学校入学者選抜の日程等について」高校教育課長から説明をしてください。

(小野高校教育課長)

6ページの資料をご覧ください。

「令和8年度県立中学校入学者選抜の日程」について、報告します。

大分県立大分豊府中学校の入学者選抜は、例年大学入学共通テストの1週前に実施をしています。したがって、令和8年度入学者選抜の検査日は1月10日(土)としました。

また、昨年度まで入学予定者の発表から入学意思確認書の提出開始まで1週間空けていましたが、入学予定者の確定やその後の手続きをより円滑に進めるため、入学意思確認書の提出開始日を例年より5日早めて、令和8年度入試は1月21日(水)からとしています。

報告は以上です。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見なし)

③ 令和7年3月卒 高等学校新規卒業者の就職状況について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(山田教育長)

次に、報告第3号「令和7年3月卒高等学校新規卒業者の就職状況について」

高校教育課長から説明をしてください。

(小野高校教育課長)

令和6年3月高等学校新規卒業者の就職状況について報告します。資料をご覧ください。これは紹介就職のみを対象とした大分労働局のデータを元にまとめた資料です。

1は、紹介就職の内定者数、未内定者数、内定率の年次毎の推移をあらわしたものです。高校卒業生数の減少に伴い、就職希望者数、就職者数とも減少傾向の中、令和7年3月末の就職内定率は99.7%と昨年度より0.1ポイント減少はしていますが、高水準を維持しています。

これは、令和7年3月末の求人倍率が2.67倍と過去10年間で最も高い水準であったという状況の中で、企業サイドの採用意欲の高まりと、生徒の進路希望の実現に向けたきめ細やかな指導等、学校での熱心な就業支援との相乗効果の成果であると考えています。

一方で、令和7年3月末の就職未内定者数が5名となっていますので、未内定者については、卒業後も、各学校の卒業生相談窓口等が中心となり、生徒の希望進路達成に向け、ハローワークや関係機関と連携し、引き続き就職支援を行っています。

2の県内就職状況です。大分県では人口減少が喫緊の課題であり、地方創生を担う人材の育成が最重要課題の一つとして位置づけられています。就職内定者のうち県内で内定した者の割合は73.5%で、昨年度同期と比べ0.4ポイント減となりましたが、それでも九州では福岡県に次いで2番目であり、依然、高水準を維持しています。これは、コロナ禍での地元志向が続いていることに加え、商工観光労働部との連携による県内企業説明会等の取り組みや、工業科に配置したキャリアプロデューサーの成果によるものだと考えられます。

教育委員会の取組として資料下に記した①から④を実施し、生徒の就職支援を引続き行っています。このうち①と②は当課と大分労働局、商工観光労働部との連携で取り組んでいるものです。また、就職状況を把握するためにも、今年度9月から学校訪問を実施する予定です。

本年度も学校訪問等を継続的に行いながら、各学校が生徒一人一人の進路希望の実現に向け、きめ細やかな進路指導を行えるように支援していきます。

報告は以上です。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

離職率はどのくらいですか。先日、メディアで「5月連休明けに退職代行サービス業が繁忙期になる」という話を聞きました。高校生の「就職」や「働くこと」

に対する意識をきちんと育てていくことで、離職率にも反映されていくのではないかと思います。

(小野高校教育課長)

離職率については、大分県出身者だけの離職率を、県を超えて調査することはなかなか難しい状況です。全国労働局の最新データでは令和3年3月卒の離職率は37.7%で、平成27年3月卒の41.5%と比較しても改善されていることがわかります。

離職については、昨今の考え方の一つとして、キャリアチェンジというものもあり、一概に言えないところもあります。いずれにしても、きめ細かな就職指導が、少しずつではあるものの成果として表れていると感じています。

(岩武委員)

県内就職率73.5%は健闘していると思います。一方、県内企業の人手不足も課題ですよ。

(小野高校教育課長)

県内外とも給与面、福利厚生面など好条件の求人が増えています。

(高橋委員)

熊本県の菊陽町の例もあります。色々な波及効果もあると思いますが、優秀な生徒が県内に残って活躍できるよう期待しています。

(鈴木委員)

昨年、就職などの進路指導を保護者として聞いたときに、有名企業であっても、その生徒の適性や環境にまで踏み込んで、保護者とともに話し合いを重ねて、企業選びを進めていました。とても丁寧な指導の成果で、離職率も下がっていると思います。

一方、働くことについての認識がまだ低いように思います。アルバイト経験の有無など、社会の厳しさがわかっていない生徒も中にはいます。

ただ、現場の先生方は本当によくやったださってるので、まず一旦この結果を含めて褒めてから、「今年も頑張ろう」と話をしていただけると、現場の士気も高まると思います。

④ 令和7年度第1回グローバルリーダー育成塾（第10期生）開講について

（2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室）

（山田教育長）

次に、報告第4号「令和7年度第1回グローバルリーダー育成塾（第10期生）開講について」高校教育課長から説明をしてください。

（小野高校教育課長）

資料8ページをご覧ください。令和7年度グローバルリーダー育成塾について報告します。

県内高校1・2年生を対象としたグローバルリーダー育成塾は、平成28年度に開講し、今年度で10年目を迎えます。当日の内容は、世界で活躍する講師による基調講演と、世界の諸課題の解決に向けた英語による議論・発表で構成されます。特に、生徒同士の協議に関しては、県内大学に在籍する国際留学生等を交えて、課題解決に向けた英語での議論・発表を通して、生徒の挑戦意欲を喚起し、異文化理解や多様な価値観を持ったグローバル人材の育成に取り組んでいます。

本年度は第1回を5月24日（土）に開催します。900名を超す生徒が参加予定です。生徒が学校の枠を越えて意見を交わすことができる環境を提供するため、会場を分散し、オンラインでつなぐ形で実施します。

第1回の内容は、基調講演、生徒間のグループ協議・発表と続きます。また、スタンフォード大学遠隔講座第6期生が修了しましたので、併せて閉講式を行います。9ページの資料にもありますが、これはスタンフォード大学と県教育委員会が協働して、県内高校1・2年生向けに行う同時双方向型のオンライン遠隔講座で、成績優秀者2名については、現地表彰式に参加します。

スタンフォード大学遠隔講座の成績優秀者については、スタンフォード大学で選考していただき、優秀者2名が速報で発表されましたので、この場を借りて発表します。成績優秀者の1名は宇佐高等学校3年生の奥田 吉音香（おくだ よおか）さんで、受講時は2年生です。もう1名は安心院高等学校3年生の岸田 優里（きしだ ゆり）さんで開講時は2年生です。この2名は、成績優秀者として、8月現地での表彰式に招待される予定です。

続けて、クロスカルチャープログラム・オンキャンパスについて説明します。これは、国内にいながらにして、世界と渡り合う機会を提供するプログラムで、立命館アジア太平洋大学と県教育委員会が協働して、県内高校1・2年生向けに行う対面講座や宿泊研修、オンライン遠隔講座を実施するもので、昨年度第1期生が修了したので、閉講式を行います。

この講座の閉講式では、成績優秀者が各2名選ばれますが、スタンフォード大学の遠隔講座の成績優秀者2名は、英語でプレゼンテーションを行うということになっています。

今年度のグローバルリーダー育成塾は、年間3回行います。第2回及び第3回

は、これまで以上に英語を活用して国際学生等との協議議論・発表に取り組みます。また、9月にはサイエンスの視点から社会課題の解決を考えるというテーマで特設プログラムを行う予定です。

本年度もこうした一連の取組を通じて、本県におけるグローバル人材の育成に努めていきます。

報告は以上です。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

小・中学生を対象に医学塾を主催しており、年に1回、夏休みを利用して子どもたちに医学の体験をしてもらう会をしています。そのときの生徒が、医大に入学しました。そして今年ようやく研修医になって、病院で働いています。グローバルリーダー育成塾が始まって10年経ったと聞きました。これに参加して、例えば、海外に行って活躍しているとか、そのような子どもたちの事例があれば教えてください。

(小野高校教育課長)

大学に行った後の活躍についてはまだ情報不足ですが、全体的に見ると、海外の大学、東京大学、九州大学、大阪大学、国際教養大学と、難関大学にも入っています。語学だけではなく、挑戦意欲を喚起するものであり、そのような意味で高いレベルの大学に挑戦していることは見受けられます。

(高橋委員)

10年間で、スタンフォード大学に行った方はいますか。

(小野高校教育課長)

いません。

(高橋委員)

このような優秀な子どもがたくさんいるのであれば、そういう方向もあると思います。人間の人生はどこで変わるかわかりません。

私が武道を教えていた生徒が、外国語大学に進学し、現在はドイツにいます。その生徒は現在6ヶ国語話すことができます。最初の留学先はオーストラリアで、その後アメリカに行きました。シアトルマリナーズの会場で案内係のアルバイトをしており、あちらではスペイン語を話す方が多いので、まずスペイン語を覚えました。するとイタリア語もポルトガル語も話せるようになり、それがアフリカに行っても通用するらしいです。

なぜドイツに行ったのか尋ねたところ、「まだ東欧の言葉を覚えていなかった」

ということで、勤めていた関空を辞め、ドイツに行ったということです。そのような方が帰国された際に、生徒たちが実体験を聞くような機会を設定すると面白いと思いますので、検討してください。

(岩武委員)

このグローバルリーダー育成塾も、平成28年の開始当初は100名ぐらいだった参加人数が、段々増えてきました。生徒の進路を追跡することは難しいかもしれませんが、グローバルリーダー育成塾としての成果は、例えば難関大学に総合型選抜で入る、というようなことを求めるものではないと思います。高橋委員が言われたように、結局参加した生徒が社会に出てからその後どうなったのかということに私たちも興味があります。

今は、一旦つながりができれば情報が取れる時代です。この子どもたちが今からどうなっていくのかということは何らかの形で追跡できるシステムを作っていただければ、このような事業の励みにもなると思います。

最終的には大分県で活躍してほしいとか、大分県にいないけれども世界で活躍するとか、軸足を大分県に持っていてほしいという願いがこちらにもあるので、そのようなことも考えていただければと思います。

(小野高校教育課長)

国内外で将来活躍するそのための素養を育てていくものですので、まさにおっしゃるとおりだと思います。

(山田教育長)

最後にその他、何かありますか。

(山田教育長)

それでは、これで令和7年度第3回教育委員会会議を閉会します。
ありがとうございました。